

図書館だより

「渋沢栄一 近代日本を創った男」



(旧渋沢庭園内の渋沢栄一像)

令和三年九月吉日・第九八号

成田高等学校図書委員会発行

日本資本主義の父、渋沢栄一

社会科教諭 深田富佐夫

渋沢栄一は一八四〇年(天保十一)に、今の埼玉県の深谷市で生まれました。渋沢家は百姓身分でしたが、藍玉の製造販売と、養蚕を手がけていました。このように農業だけでなく、商業にも手を広げているような百姓は豪農と呼ばれ、一八世紀に入ってから各地で見られるようになりました。その背景には、貨幣が人々の生活に行き渡り、遠くの生産地で作られた品物が、はるばると消費者の手元まで運ばれてくるような社会が、このころに構築されていたからでした。このような社会は、のちの明治の世の中になつてから始まった、日本の産業革命の基盤となりました。渋沢はこのような時代の変化を、肌で感じながら少年から青年へと成長したのです。

渋沢はその生涯にわたつて、とんでもない数の企業の設立や運営に携わり、その数は五〇〇社以上といわれています。それだけでなく、教育・福祉にも高い関心を示し、経済を通じた国際交流にも努力しました。また、日露戦争後に急激に悪化した日米関係

の改善にも尽力し、現役の外交官顔負けの活躍を見せました。渋沢の最晩年の一九二七年(昭和二)に始まった、人形を通じた日米親善活動はとくに有名です。

身分制社会である江戸時代末に生まれた百姓身分の渋沢が、なぜこのような活躍をすることができたのかについての説明は、大河ドラマでの吉沢亮さんの熱演にお願いすることとして、ここではなぜ渋沢が「日本資本主義の父」と呼ばれるようになったのか、ということについてお話をしたいと思います。それはただ単に数多くの企業を立ち上げた、というだけではありません。それだけなら、三菱を創業した岩崎弥太郎や、安田財閥をつくりあげた安田善次郎にもその資格があるはずですが。しかし、彼らと渋沢には決定的な違いがありました。それは、渋沢が一九一六年(大正五)に著した『論語と算盤』という本にある、彼の考え方に見ることができまます。そこには「富をなす根源は何かといえ、仁義道德。正しい道理の富でなければ、その富は完全に永続することができぬ」という一文があります。つまり、お金はただ儲ければいいというものではなく、その儲け方が大切だ、ということです。このような考

え方は「道德経済合一説」と呼ばれています。渋沢はその考え方について、アダム・スミスの関連があることを述べています。アダム・スミスといえば『国富論』が有名で、経済学の祖とされていますが、本来は哲学者で、その前に『道德感情論』を著しています。アダム・スミスは、本来利己的であるはずの人間が社会の秩序を保ち、道徳的にふるまえるのはなぜなのか、道徳的でいようとするこの感情はどこからくるのかということを考え、その根源には人間が他者と共感する力を持つているからだ、と結論付けました。そして、富める者の富は貧しい者に対し、見えざる手に導かれるようにして公平に分配されるはずだと説いたのです。そしてその後、当時始まっていた産業革命によるイギリスの社会の変化について、『国富論』で説明しようとしたのです。

渋沢は、本来道徳と関係性が薄いと思われている人間の経済活動が、実のところ深いところで結び付いていて、そのことが忘れ去れた社会は持続しないと考えていたのだ、と言えるでしょう。

これまで資本主義とその基盤となる市場経済は、私たちの生活を豊かにしてきまし

だが、それが果たしていつまでも続くものな
でしようか。そうではないということは、皆
さんもうすうすう感じているのではないでし
うか。止まらない地球の温暖化、格差社会
による社会の分断、といった問題は市場経
済がとことんまで行き着いてしまったこと
によるものです。

なぜそうなってしまうのでしょうか。そ
れは資本主義と市場経済の根底には人間の
欲望があるためで、これを満足するまで放
つておいたらきりがありません。しかし、便
利な生活に慣れきって、今さらそれを手放
すことができない、というのが正直な所
でしょう。それは私も同じです。渋沢もアダム・
スミスもそれをすべて否定しているわけでは
ないのです。ただ、「それは本当に今必要な
ものか」「それはどうして私の手元にあるの
か」「それを得ることで他者にどう影響する
のか」と、いつも自分に問い続けながら生活
していく必要が、これまで以上に求められて
いるのかもしれない。

便利な道具も、使い方によっては人を傷つ
けるかもしれないが、使い方さえ気を付
ければ人々の生活を豊かにします。その使
い方こそが渋沢のいう「論語」であり、ア

ダム・スミスのいう「他者と共感する力」な
のではないのでしょうか。つまり、資本主義も市場
経済も、人を思いやる必要があります。だ
かろうそ「日本資本主義の父」と呼ばれて
いるのかもしれない。

公益財団法人 渋沢栄一記念財団

『渋沢史料館』を訪ねて

3C・小名木梨緒
3D・若名 紀帆

私達は、「図書館だより・渋沢栄一」の特
集を組むにあたり、王子にある、渋沢史料
館を訪ねました。



(旧渋沢庭園内の渋沢栄一像)

はじめに気になった

のは、渋沢史料館のマーク
です。渋沢家の家紋「丸に
違い柏」と同じ、柏の葉が
使用されています。



渋沢栄一は、幼いころから、忍耐強く、物
事をきちんとしなければ落ち着かない、そ
んな気性の持ち主だったようです。二歳か
三歳の頃、誰かが障子を半開きにしたまま
出ていくと、回らない舌で開ける開けると
言っていたそうです。中途半端が嫌で、開
けるなら開ける、閉めるなら閉める、と、はっ
きりして欲しかったようです。なるほど、大
物になったのもわかります。



(渋沢史料館展示室内)

十一、二歳頃は、
「通俗三国志」や、
「南総里見八犬伝」
などをよく読んでい
たそうです。「南総
里見八犬伝」は、主
に千葉県が舞台の物
語です。私たちに繋
がりがあるような感
じがしますね。私も、南総里見八犬伝を愛
読した時期があるので、親近感が湧きまし
た。

青淵文庫(せいえんぶんこ)

渋沢栄一の八十歳、それから子爵への昇格のお祝いを兼ねて送られた建物です。書庫として建てられ、素敵なステンドグラスや飾りタイルが、とてもおしゃれな雰囲気醸し出しています。「青淵」とは、渋沢栄一が生まれ育った埼玉県深谷市(現在)の自宅の下に「淵」があったことから、家を「淵上小屋」と名付けていたことに由来するそうです。



(青淵文庫)

(写真: 渋沢史料館 WEB サイトより)

外見は少し角ばっている印象を受けました。色々な場所で渋沢家の家紋「丸に違い柏」にちなんだ装飾が施されているので紹介します。



(内部にある飾りタイル)



(上・部屋のステンドグラス、下・手摺子)

お祝いとして贈呈された建物のため、あちらこちらに「寿」の文字もデザインとして組み込まれています。ステンドグラスには、柏の葉もデザインされています。他にも、福を呼び込む生き物とされていたコウモリなど、縁起を担いだモチーフもありました。

部屋にかけられた掛け軸には、厳しいお言葉が。解説ボードによると、



(渋沢栄一書)

余有るを待ちて人を済はんとせば終に人を済ふの日無けん、
暇有るを待ちて書を読まんとせば必ず書を読むの時無けん。

暇があつたら書籍を読まうと云ふ奴に本が読めた例がない。本を読む気があれば暇は自ら生ずる。

「時事新報」第一〇〇三八号明治四四年
八月二七日 渋沢栄一

今回の取材で、渋沢栄一の生涯や、ゆかりの建物について知ることができ、ますます渋沢栄一に興味が湧きました。これから、調べていきます。

『ビビる大木、渋沢栄一を語る』

(著者)ビビる大木・(発行)(株)プレジデント社



この本は、お笑い

タレントのビビる大

木さんが渋沢栄一の

激しい生き方や言葉

の数々から学んだ

「四五の教え」を紹介

し、それらの言葉で自分はどう生きていく

かを書いた本になっています。この本を読め

ば大河ドラマ「青天を衝け」の主演である渋

沢栄一のことがよくわかります。

ビビる大木さんは元々歴史、特に幕末好

きだそうで、吉田松陰やジョン万次郎のフア

ンであり、お二人の紹介も序章でしていま

すのでぜひ読んで下さい。

ディレクターさんに「お笑い中間管理職と

して役立つよ」と言われ、渋沢栄一を調べた

のが始まりだそうです。「みずほ銀行、三菱

銀行、りそな銀行、東京電力。東京ガス、帝

国ホテル、東宝、サッポロビール」皆さんよく

ご存じのこれらの会社は全て渋沢栄一が創

業にかかわったとされている会社です。しか

もこれらはほんの一部に過ぎません。彼の

関わったとされている会社の数はなんと五

〇〇件にも昇るのです。何度聞いても驚きの数字です。これだけでも彼の偉大さが伝わったのではないのでしょうか。興味を持った方はぜひ読んでみてください。

〈図書委員長〉樽井陸(3A)

『天才 渋沢栄一』

明治日本を創った逆境に強い男と慶喜

(著者)星亮一・(発行)(株)さくら舎



この本では渋沢

栄一の生涯の出来

事を一つずつまと

めている。大河ド

ラマの二話一話を

十数行に表したと言うのが感想である。

全八章からなる渋沢栄一はさらに細か

く表題で分けられ、時間があまりないとい

う人でも手軽に読むことが出来る。読書が

好きでないという人も、この形式なら手に

取りやすいと思う。

私が読んでいて印象に残った話を少し紹

介しよう。

「ガラス窓」という題の話だ。

パリに向かう渋沢達は汽車に乗っていた。

その汽車はガラス窓があったのだが当時の日本人はガラスの存在を知らない。

一人がみかんを食べた後、その皮を外に

投げつけた。無論皮は跳ね返り隣にいた外

国人にぶつかる。外国人は怒ったが日本人は

投げ方が悪かったと再び投げる。

しかしガラス窓に跳ね返ってやはり外国人に当たった。

通訳が飛んできて事情を説明するとお互いに笑い転げた、という話である。

彼らの見た世界を知ること渋沢栄一を知る上では大切であろう。

〈図書館だより班長〉小名木梨緒(3C)

『渋沢栄一 社会起業家の先駆者』

(著者)島田昌和・(発行)(株)岩波書店



全二二二二ページ。

内容は羅列的で、第

一国立銀行や紙幣、

渋沢栄一の身近な

ものなど多くの写真が貼り付けられており、

比較的読みやすい。

本著は①青年期の生い立ち②実業界での

活躍③それを支えた人的ネットワーク④政

治への関わり⑤晩年の社会公共事業という章立てで構成されている。

渋沢栄一の著書や渋沢栄一のことを書かれている本から抜粋した内容や、著者の解釈を入れて書かれており、作者自身の定義によって切り出されているのも多く、渋沢栄一の生涯を知れるのはもちろんのことだが、著者による客観的な視点で読み進めていけるのも面白い。

大部分を占めているのは渋沢栄一が実業家になってからの内容である。

幅広い人脈と豊富な財産で多くもの事業を展開し、偉大なる起業家とされているが、攘夷を主張し高崎城を乗っ取るうとした物騒な二〇代があつたのは驚きだ。

一八七二年の国立銀行条例は、渋沢栄一が日本随一の起業家となり得た第一歩の政策だった(国は立てていない, “国民設立”銀行条例)。「公益性の高い大資本が必要な事業は株式会社」、「ハイリスクハイリターン」の事業は合資会社、「小規模の個人ビジネスには合名会社(匿名組合)」など、事業ごとに企業形態を分けたのは、現代にも生きる社会基盤をつくつたとも言える。第一国立銀行創設から始まり、生涯一七八社に関わっているという。(本書によれば一八九八年

時点で兼任役職数三二社、一八七六年の国立銀行条例改正による。)

宮嶋隼也(3B)

『逆境を乗り越える』

渋沢栄一の言葉

(著者 桑原晃弥・(発行) ㈱リベラル社)



きつと、こういうところなんだろかな、と感じた。いつものまにか、『日本が最先端』になっている理由。これが日

本人らしさだよ。このご時世に、こんなことを言つたら、叱られてしまうだろうか。

例えば、コンピュータを最初に作つたのは日本人ではないのに、日本のスーパーコンピュータが世界一になつたのはなぜなのか。外国から持ちこまれた鉄砲を自国で生産し、戦国時代のころ、世界のどの国よりも鉄砲を持つていたのはなぜなのか。その理由は、きつと、この本に載っていることそれこそ、なんだと思う。

西洋のマネ事をしてるだけでは、真の近代化なんてできない。日本人らしいやり方で、新しい社会の仕組みを作っていかなければ、

ば。そのような考えがにじみ出ている、渋沢栄一の生き方。

渋沢栄一は、「この人が、日本人です」と、私たちが誇れるような人だ。

若名紀帆(3D)

『現代語訳ベスト・オブ・渋沢栄一』

(著者 渋沢栄一・(編者) 木村昌人・(発行) ㈱NHK出版)



「正しい利益」を求めて

大河ドラマ「青天を衝け」の題材や、二〇二四年から発行予定になっている一万円札に採用さ

れた人物「渋沢栄一」。

会社の利益と社会全体の利益(公益)の両方を追求する「道徳経済合一」を唱え、日本の近代経済社会の基礎を担った。「現代語訳ベスト・オブ・渋沢栄一」では「日本資本主義の父」とも称される彼の思想や生き方を幼少期から紹介している。

様々な政治・経済面で成し遂げた功績が取り上げられることは多い。しかし物事の道理を大切にし、議論を好み、自分の意見

を強く持ちながらも相手の意見にもしつかりと耳を傾けた彼の姿勢にも、我々が学ぶことができる点は多くある。

利益と公益どちらも追求できる社会に現代日本は、なっているだろうか。社会全体がコロナ禍で不況に陥っている今こそ、利益と公益を合わせて追求すべきである。これからの生きていく我々は、先人から学び、考えていかなければならない。

引地綾乃(3E)

『渋沢栄一の生涯』

(著者)渋沢栄一研究会・(発行)佃宝島社



渋沢栄一について書かれている書籍は数多くある。この本もそのうちの一冊だが、初心者に親しみやすいように構成されているのが特徴だ。

第一章では渋沢栄一の人生を分かりやすくイラスト付きで紹介している。武蔵国の農家として生まれ、一〇代後半で攘夷志士になったと思えば徳川慶喜の家臣に就き、明治維新後は官僚や実業家として日本の経済の礎を作った男の人生は大変興味深い。

第二章では日本の歴史と渋沢の深い関係がその時の情勢も踏まえて書かれている。廃藩置県に伴う諸問題に不眠不休で取り組み、日露戦争後に悪化した日米関係改善に動き、関東大震災では大量の義援金を集め復興に取り組んだなど、日本の歴史において渋沢が重要な役割を果たしたということが実感出来る。

第三章では渋沢栄一の名著『論語と算盤』が簡潔にポイントを押さえて解説されている。論語の精神を基本とし、一生を貫ける見込が出来た後に大志を持つ、利益だけ追求するのではなく社会の為に金を使うなど現在の我々にも通じる内容だ。渋沢栄一が書いた本に興味はあるけど『論語と算盤』で難しそう…という方はこの本で内容を理解してもいいかもしれない。

第四章は渋沢の経営手腕やお金論だ。子育てのように耐えて、挫折を力に変え、仕事に誠実に向き合う事で経営は上手くいくという言葉に勉学にも通じる所があると関心した。

第五章は渋沢栄一の間人関係だ。生涯の主君として仰ぎ続けた徳川慶喜はもちろん、仲が良かった伊藤博文や、「渋沢を世の中に初めて出したのは吾輩だ」と豪語したほど

深い関係だった大隈重信など、日本の歴史の偉人達と幅広く関係を持っていた渋沢栄一。個人的には当時の米大統領ルーズベルトとも関係があったのには驚いた。他にも渋沢と偉人たちの間で起こした面白い話も書かれている。

最終章では渋沢栄一の名言がテーマごとに載っている。人生を切り拓く言葉や高い志、積極的に行動を起こす事、利益よりも社会…など渋沢栄一という人物像、考えが濃く反映されている。

牛尾奏平(3G)

『渋沢栄一』

『道徳的であることが最も経済的である』

(編者)鹿島茂・(発行)佃文藝春秋



現在放映中の大河ドラマ、「青天を衝け」の主人公、渋沢栄一がこの国にどのような影響を与え

た人物なのか記されています。彼は一般的には「日本資本主義の父」と呼ばれています。この本ではなぜ渋沢栄一がこのよう

二つ名を持っているのかが、彼の生涯とともに書かれています。その上、当時の時代風景がわかりやすいように、その時に撮影されたであろう写真が載っています。それだけではなく、この本の作者である鹿島茂が渋沢栄一の関係者や、彼を研究する専門家、エッセイストとの対談も掲載していました。中には、渋沢栄一の実の曾孫との対談もあり、読んでみると曾孫自身から見た渋沢栄一や彼の祖父、父の印象を述べていても興味を持ちました。そして渋沢家の裏の事情や衝撃の事実を知ったときは、少し現実味を感じました。

読み進めるには少し時間がかかると思いますが、ページ数も少なく、長い文章がずつと続いている訳ではないので読みやすさは断然いいと思います。

みなさんも機会があれば読んでみてはいかがでしょうか。

松本愛美(3日)

『渋沢栄一 人間、足るを知れ』

(著者)永川幸樹(発行)KKベストセラーズ

本書では筆者である永川幸樹の考えを織り交ぜながら渋沢栄一の生涯を追い、その中の



様々なエピソードを通して渋沢栄一の信念、考えを知ることができる。

全二四九ページ。

写真は少ないが、代わりに分かりやすい図などがある。また、ページ数は若干多いが大体五ページ、一タイトルで短編のようになっており、とても読みやすい。

構成としては一章、二章が実業家になるまで、三章からは実業家になった後の話なので、なぜ渋沢は実業家になったのか、実業家になって何をしたのか、そのどちらも知ることができる。もつと渋沢を知りたいという人におすすめだ。

長島己織(2C)

▼協力

・公益財団法人 渋沢栄一記念財団

渋沢史料館

▼参考文献

・デジタル版 渋沢栄一伝記資料

▼令和二年(二〇二一)年度年間貸出冊数

中学生利用冊数	二, 九九四冊
高校生利用冊数	二, 四四九冊
小学生及び職員利用冊数	三七〇冊
合計	五, 八一三冊

▼図書委員・役員お疲れ様でした

図書委員役員は左記の通りです。

尚、9月中旬に役員改選を行い、後期役員が決定する予定です。

図書委員長：高3A 増井陸

〃 副委員長：高3G 高橋一郎

〃 副委員長：高2E 齋藤大耀

〃 副委員長：高2H 松田悠豊

展示

班長：高3F 引地綾乃

副班長：高2H 下原都徳

蔵書点検

班長：高3A 津村潤

副班長：高2G 飯塚朝飛

図書館だより

班長：高3C 小名木梨緒

副班長：高2C 長島己織

▼学校図書館の発行者

①『Bibliothek』

新着図書の中から、お薦めの図書を紹介

◆毎週発行

(図書館内掲示及び学校HP掲載)

②『図書館だより』

テーマに沿って図書委員が取材
学校HPにバックナンバー掲載

③『READ』ポスター

毎年9月頃発行(全校に配布)
教職員がおススメの本の紹介ポスター掲
示及び学校HPに内容紹介